

日本の「名門倶楽部」

サロン、テニス、ゴルフ、マリーナ...

「交詢社」(明治初期)

福沢諭吉が日本最初の創設者。福沢諭吉は欧米を視察し、そこで目にしたのは、紳士たちが集い、意見交換を行う社交場としての倶楽部だった。福沢諭吉は近代化を目指す日本にも倶楽部が必要と考え、明治13年(1880年)年に「交詢社」を設立した。会員は等しく「社員」といわれ、互いに「〇〇君」と呼び合ったそうです。戦後は、吉田茂や鳩山一郎、松下幸之助といった政財界の重鎮が名を連ねて、活発な意見交換を行っているそうです。背広にネクタイ着用が規則となっています。場所は東京都銀座です。



「東京倶楽部」(明治中期)

明治政府が欧化政策を推し進めていた明治17年(1884年)、当時の外務卿井上馨が鹿鳴館内の一室に設立したのが「東京倶楽部」である。入会資格は「立派な紳士であること」と簡単明瞭ですが、先だって設立された交詢社と比べて、より本場・英国に倣った細かい規則を設けているのが特徴のようです。クラブ内は基本的に英語が公用語として、政治や商売の話はご法度。女性の立ち入りも時間制限があったほどです。会員には白洲次郎がいるなど、生粋のジェントルマンだけが楽しめる空間を維持しています。名誉総裁は代々宮家から排出され、現総裁は常陸宮正仁親王がついています。場所は、現在は、新橋、霞が関を経て、六本木です。



東京倶楽部ビルディング

「日本倶楽部」

日本が日清戦争に勝利した3年後の明治31年(1898年)に、政府要人らが中心となって創設したのが「日本倶楽部」である。創設者には貴族院議員議長を務めた近衛篤磨、初代副会長には日本資本主義の父と称される渋沢栄一が就きました。メンバーは大臣経験者など高級官僚で占められ、まだ議員会館がなかった時代には、倶楽部が密談の場所選ばれたそうです。かつてはここで日本の政治が動かされていたかもしれません。場所は千代田区丸の内です。



テニス倶楽部

日本最高峰の皇室ゆかりのスポーツ倶楽部。「東京ローンテニスクラブ」。他を圧倒するほど入会審査が厳しい。明治33年(1900年)に現在の国会議事堂の敷地に設立。名誉会員には天皇皇后、上皇夫妻をはじめ皇族たちが名を連ねます。一般会員にも、石原慎太郎、緒方貞子、虎屋代表取締役、三井家10代当主等錚々たるメンバーがいます。もう一つ、「軽井沢会テニスコート」は、上皇夫妻のなれそめの場として有名です。こちらも明治25年(1892年)ごろ会場という名門です。両クラブに共通するのは、入会審査が厳格である点、面接では英語力が問われ、さらに審査プレーを実施。技能に加えて品格もチェックされます。入会後も「ウェアの上下いずれかは白」とドレスコードが細かく指定され、破れば厳しく注意を受けます。



ゴルフ倶楽部

日本人が手掛けた最古のゴルフ倶楽部として、「世界のトップ100コース」にもランクインしている名門「東京ゴルフ倶楽部」。今のゴルフコースは埼玉県狭山市にあります。元をたどれば大正2年(1913年)に完成した東京の駒沢コース(現在の駒沢オリンピック公園)が始まりです。9ホールの駒沢コースは、大正11年、摂政宮時代の昭和天皇がイギリス皇太子と日英親善マッチを楽しんだことが伝わっています。その歴史を重んじ、今でも「摂政杯」「プリンスオブウェールズ杯」を毎年続けています。



乗馬

古くから乗馬は皇室の嗜みとされ、歴代天皇には常に愛馬(御料馬)もいました。大正10年(1921年)乗馬を推奨する明治天皇の意志を受けた当時の閑院宮の要望で誕生したのが「東京乗馬倶楽部」です。



●現代のお金持ちの社交場

アークヒルズ倶楽部。孫正義氏も会員。入会金165万円、年会費26万4千円。

六本木ヒルズ倶楽部。堀江貴文氏も会員だった。入会金132万円、年会費19万8千円。

東京アメリカンクラブ。東京倶楽部に在籍した在日米国人によって設立。入会金350万円、年会費4万5500円。(日本国籍、ファミリー会員の場合)

イーグルポイントゴルフ倶楽部。IT長者だけで構成される。孫正義氏、楽天の三木谷氏、サイバーエージェントの藤田氏らが集う。会員権3300万円、年会費100万円。

(この記事は週刊現代の記事を参考にしています)